

ブータン仏教開祖ツァンパギャレーの人物像解明への一歩

—最古の伝記から読み解く国民総幸福量(GNH)の起源—

概要

資本主義は飛躍的な経済の発展をもたらし、人類はかつてない物質的な豊かさを手に入れることができました。他方、「国内総生産」(GDP)至上主義が横行し、経済発展ができれば他の犠牲は厭わないといった行き過ぎた考えも起こり、環境や文化、コミュニティの破壊が進んでいるところもあります。そうした中、GDP以外の要素にも着目する政策が行われるようになってきています。その筆頭として挙げられるのが「幸せの国」とも称されるブータン^{*1}です。ブータンでは、教育や文化、生態系などの要素を経済と同等に扱い、バランスの良い開発を進める「国民総幸福量」(GNH^{*2})政策を主導し、世界の開発政策に大きな影響を与えてきました。GNHは、しばしば現代における経済学的・心理学的側面から注目されますが、根源的な理論基盤として仏教倫理・仏教思想が存在していることを忘れてはなりません。

仏教国ブータンの国教宗派はドゥク派^{*3}ですが、その開祖であるツァンパギャレー(1161-1211)^{*4}の人物像は、文献が入手できなかったため、長らくベールに覆われていました。

京都大学 人と社会の未来研究院の熊谷誠慈准教授の研究チームは、ツァンパギャレーに関する現存する全ての著作の写本を照合、校訂し、考古学的・歴史的・哲学的側面から研究を進めてきました。研究チームは、ブータン政府との連携のもと、ツァンパギャレー存命中の行動を知る3人の直弟子が書いた最も古い3種類の伝記を取り上げ、複数の写本を照合しながらオリジナルのテキストへと復元した校訂本をまとめ、この度、同校訂本が王立ブータン研究所より出版されました。

同出版により、ツァンパギャレーの人物像と思想の総合的解明への扉が開かれました。ツァンパギャレーの著作中には、GNH的な幸福概念の起源ともいえる用語も確認されることから、「幸せの国」ブータンが掲げるGNHのルーツ解明にも大きく寄与する可能性があります。



図：開祖ツァンパギャレーの絵

1. 背景

産業革命後、資本主義と科学技術の飛躍的進歩により、経済とテクノロジーが大きく発展し、人類はかつてない物質的な豊かさを享受するに至りました。「国内総生産」(Gross Domestic Product, GDP)の拡大が各国政府の主たる関心事となりましたが、経済発展をするためには他の犠牲は厭わないような行き過ぎた考えも起こり、環境や文化、コミュニティの破壊が進んでいるところもあります。

一方で、近年はGDP以外の要素にも着目する政策が執られるようになってきています。その筆頭として挙げられるのが「幸せの国」とも称されるブータンです。ブータンでは、教育や文化、生態系などの要素を経済と同等に扱い、バランスの良い経済発展を進める「国民総幸福量」(Gross National Happiness, GNH)政策を主導し、世界の開発政策に大きな影響を与えてきました。GNHは、しばしば経済学的・心理学的側面から注目されますが、根源的な理論基盤として仏教倫理・仏教思想が存在していることを忘れてはなりません。

ブータンの国教宗派はドゥク派と呼ばれる仏教宗派で、ブータンを建国したシャプドゥン・ガワン・ナムゲル(1594-1651)は、このドゥク派の第17代座主にあたります。シャプドゥンは政治的に重要な人物であるため、伝記などの研究も盛んにおこなわれ、その人物像は詳細に解明されてきました。しかし、ドゥク派開祖であるツァンパギャレー(1161-1211)の人物像は、文献が入手できなかったこともあり、長らくベールに覆われていました。事実、同開祖の名前から推測して、「中央チベットのツァン地方出身の人物」(ツァンパ)であり、「ギャという氏族出身の人物」(ギャ)で、「薄い綿布をまとった隠遁瞑想者」(レー [パ])である、すなわち「チベット・ヒマラヤの洞窟にこもって瞑想をしている人物」というイメージが一般的でした。他方で、ラルン寺やドゥク寺というドゥク派の大本山を建立した人物でもあります。隠遁瞑想者である彼がなぜ大本山を建立する資金を確保できたのかなど、多くの謎が残っていました。

そこで、京都大学 人と社会の未来研究院の熊谷誠慈准教授と松下賀和(トゥプテン・ガワ) 同研究員、安田章紀博士の研究チームは、ツァンパギャレーに関する現存する全ての著作の写本を照合、校訂し、考古学的・歴史的・哲学的側面から研究を進めてきました。この度、研究チームは、ツァンパギャレー存命中の行動を知る3人の直弟子が書いた最も古い3種類の伝記を取り上げ、複数の写本を照合しながらオリジナルのテキストへと復元した校訂本を、ブータン政府と連携し、王立ブータン研究所より出版しました。(Seiji Kumagai, Thupten Gawa Matsushita, and Akinori Yasuda (2022). *The Three Oldest Biographies of Tsangpa Gyare, the Founder of the Drukpa Kagyü School*. Thimphu: Centre for Bhutan Studies & GNH Studies, 2022.)

本出版により、ツァンパギャレーの人物像と思想の総合的解明に向けた扉が開かれました。ツァンパギャレーの著作中には、GNH的な幸福観の起源ともいえる用語も確認できており、今後、「幸せの国」ブータンのGNHのルーツ解明にも大きく寄与する可能性があります。

2. 校訂本の内容

現在、ブータンの国教宗派であるドゥク派開祖ツァンパギャレーの3人の直弟子、マルトゥン(12-13世紀)、デモワ・サンギェーブム(12-13世紀)、ロレーパ(1187-1250)が著した3つの伝記が存在し、各伝記に複数の写本が現存していることが分かっています。研究グループは、それらの写本同士を照合しながら、欠損箇所や誤記を修復、修正、校訂し、オリジナルのテキストへと復元しました。

3名の直弟子はいずれも、開祖ツァンパギャレー存命中の活動を知る人物でしたが、同開祖の詳しい情報については、後代の伝記や歴史書の記述と相違があることから、それらの情報の多くが後代の付加である可能性が高いことも判明しました。

このように、最古の伝記群の詳細な検討は、同開祖の生存時の時代状況を正しく把握するためには必要不可

欠といえます。同伝記で確認される、同開祖の仏教哲学的な思考や利他的な行動は、ブータンにおける「幸福観」の起源を示唆するものであり、のちにGNHという概念を提唱されるに至ったものと考えられます。

3. 波及効果、今後の予定

このたび出版した校訂本は、開祖ツァンパギャレーを直接知る3名の直弟子が著した3種の伝記の情報に限定されていますが、今後、後代のドゥク派の学僧たちが著した比較的新しい伝記や歴史書の写本を全て校訂した上で、順次出版し、歴史的側面から同開祖の人物像を解明していく予定です。また、同開祖自身が著した著作も、写本校訂を進めており、思想的側面も総合的に解明していく予定です。

本出版により、ツァンパギャレーの人物像と思想の総合的解明に向けた扉が開かれました。ツァンパギャレーの著作中には、GNH的な幸福観の起源ともいえる用語も確認できていることから、今後、「幸せの国」ブータンのGNHのルーツ解明にも大きく寄与する可能性があります。

4. 研究プロジェクトについて

本研究プロジェクトは、公益財団法人上廣倫理財団の支援により、京都大学 人と社会の未来研究院 上廣倫理財団寄付研究部門において進められてきました。また、校訂本については、ブータン首相官邸と連携のもと、王立ブータン研究所から出版されました。

<用語解説>

※1. **ブータン**：ヒマラヤの東部に位置する。ドゥク派第17代座主シャプドゥン・ガワン・ナムゲル(1594-1651)が建国。現在のワンチュク王朝は1907年に誕生。

2. **国民総幸福量 (GNH)**：第4代ブータン国王ジクミ・シンゲ・ワンチュク (1955-)が1970年代に提唱した概念。当時、国内総生産 (Gross Domestic Product, GDP) 至上主義的な世界的潮流に対して、GNH (Gross National Happiness) という概念を提示し、物質主義に偏らない幸福観を提唱した。

3. **ドゥク派**：チベット仏教カギユ派の支派であり、シャプドゥン・ガワン・ナムゲル(1594-1651)がブータンを建国してからはブータンの国教宗派となった。

4. **ツァンパギャレー**：12～13世紀 (1161-1211) に活躍したドゥク派の開祖。

<研究者のコメント>

GDP 至上主義的な流れに対し、ブータンはGNHという概念を提唱し、モノやお金以外の要素についても価値を見出そうとしてきました。物質と精神の両面をバランスよく保とうとするブータンの幸福観は、世界の幸福政策にも大きな影響を与えてきました。そのルーツには、仏教的な倫理観や哲学思想が存在しています。ブータン仏教のルーツ解明が進むことで、GNH理解も深まり、世界の開発政策や幸福観の構築に貢献できることを願っています。(熊谷誠慈)



<書籍情報>

タイトル：*The Three Oldest Biographies of Tsangpa Gyare, the Founder of the Drukpa Kagyü School.*

(ドゥク派開祖ツァンパギャレーの3種の最古の伝記)

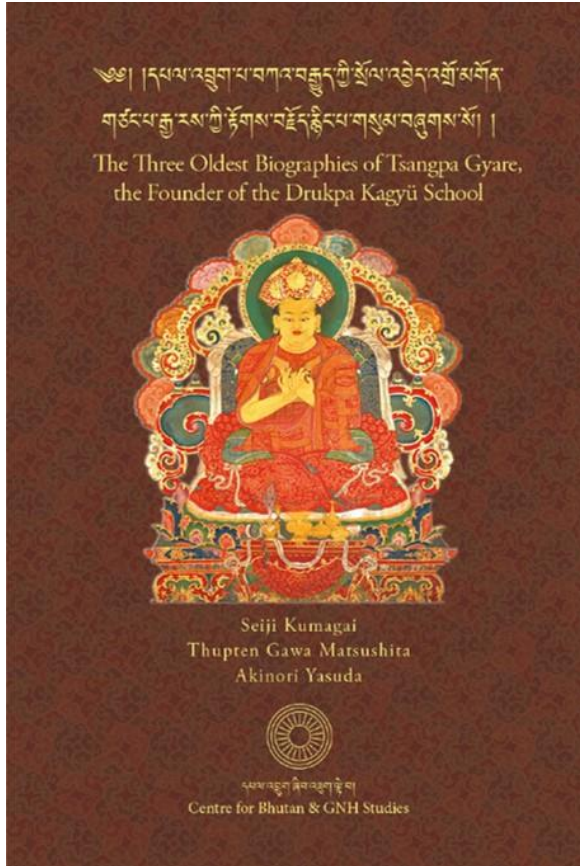
著者：Seiji Kumagai, Thupten Gawa Matsushita, and Akinori Yasuda

出版元：Centre for Bhutan Studies & GNH Studies ISBN 978-99980-35-14-0

参考 URL

<https://www.bhutanstudies.org.bt/the-three-oldest-biographies-of-tsangpa-gyare-the-founder-of-the-drukpa-kagyü-school/>

< 参考図表 >



Critical Edition of Tsangpa Gyare's Biography Composed by Drenowa Sangyebum

ཐུང་འཇུག་རྟོགས་པ་(P399.3)ཉམས་ཀྱི་འཛོན་པ་(T380.5)དག །
 རྣམ་སུལ་འཛོན་པ་དུ་རྟེན་འབྲེལ་སྐྱོད་གསུམ་གསུམ་གྱི་ །
 ལྷགས་རྗེ་འབྲུགས་ཀྱིས་འཕྲིན་ལས་རྒྱན་ཚད་མེད། །
 ལྷོས་ཚེན་ཚོད་ཀྱིས་འགྲོ་(T381.1)ཀུན་རྒྱལ་གྱི་(P399.4)ཅིག །

ཚོས་སྐུ་འཛོན་པ་ཐར་འགྲོ་བ་ཡོངས་ལ་ཁྲབ། །
 ཡོངས་སྐུ་འཛོན་པ་ཐར་མི་གནས་ཕྱང་ན་འདས། །
 ལྷོས་སྐུ་འཛོན་པ་ཐར་ཚད་མེད་འགྲོ་བ་འཛོན་པ་ལོན། །
 རྣམ་ཐར་ཀུན་(T381.2)རྗེ་གསུམ་རྗེ་(P399.5)ལ་གུས་ཕྱག་འཚུལ། །

གློ་མ་ཚོད་ཀྱི་རྣམ་ཐར་ནི། །
 ཀུན་གྱིས་དཔག་ཏུ་པའི་སྤྱོད་ལུལ་མིན། །
 བདག་སོགས་ལྷར་བཅས་འཛིག་རྟེན་གྱིས། །
 བཟོད་པར་བྱ་བ་སྐྱོས་ཅིད་གོས། །

འོན་ཀྱང་(P399.6)གདུལ་བྱའི་སྐུང་(T381.3)བ་ལ། །
 དེ་དང་འཚོས་པའི་མཛད་པ་སྟོན། །
 བསམས་པ་བཟང་པོས་ཀུན་གླངས་ནས། །
 ཐུང་ཚམས་འདི་དུ་བསྟན་པར་བྱ། །

དེ་ཡང་སྟོང་གསུམ་མི་མཛད་འཛིག་རྟེན་གྱི་ཁབས་(P400.1)ན། སངས་རྒྱལ་གྱི་སྐུ་ལ་78པ་སྟོང་བྱེ་བ་
 (T381.4)ཕྱག་བརྒྱ་ཇི་སྟེད་ཅིག་བཞུགས་པ་ལ། དེ་དག་གི་ནང་ནས་ཚོས་རྗེ་འོན་པོ་ཚེ་79དཔལ་80ལྟར་

(左) 今回出版した校訂本の表紙

(右) 古典チベット語のテキストの例 (デモワ・サンギェーブムの著したツアンパギャレーの伝記より)